

東奥日報

2021年(令和3年)12月5日(日曜日) (10)

三味線演奏 装置で五線譜化

100曲 邦楽伝承の糧に



譜面化の作業を熊谷市長(左)に解説する松田さん(中)と小坂谷教授

八戸工業大学 市に譜面寄付

八戸工業大学 松田さん
自動採譜装置は同大学院の小坂谷壽一教授が2009年に研究を始めた。松田さんが演奏した曲を同装置で譜面化し、師匠からの口伝が中心だった邦楽の伝承に取り組

ハ 戸
三味線など伝統音楽の演奏を楽譜にする「自動採譜装置」を開発し、県内や東北地方などの民謡の記録化に取り組んでいる八戸工業大学と、八戸市出身の津軽三味線奏者松田隆行さん(48)＝仙台市在住＝は11月30日、採譜した100曲の譜面を八戸市に寄付した。
◇ (三好陽介)
松田さんは、寄贈式で津軽三味線の演奏を披露した。松田さんは終了後の取材に対し、「1曲を譜面化する作業は時間がかかる。それを100曲まとめて市に寄付できたことは達成感がある」と語った。
八戸市は寄付されたバインダーを図書館で保管し、複写サービスを行うことにしている。

ハ 戸

同日、小坂谷教授と松田さんらが八戸市庁を訪れ、全国の民謡を譜面化したバインダーを熊谷雄一市長に手渡した。
小坂谷教授が譜面化の作業を解説し、「消えゆく伝統音楽の正確な保存と記録化が実現できた。難しい三味線譜ではなく五線譜で表現することで、子どもにも身近になり、邦楽人口の底辺拡大につながる」とメリットを述べた。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」